藩校建築の研究
－埼玉県指定史跡『遷喬舘』を主とする藩校建築の復原および比較検討－

K01056　佐藤　太一

Ⅰ．研究の背景と目的

江戸時代後期、藩学が隆盛し、多くの藩が藩校を設けるようになった。この藩学の隆盛の背景には学校教育の内容と組織が整備されてきたことが理由にあげられる。

教育内容についてみると、従来別々になっていた学問所と武術稽古所とを一つの構内に集めて、一人の総教(学校長）または学校奉行が、全体を総括するように移行していった。

武士を育成するための武教育を学校の仕事のなかに移したことは、一方では、武教育の目標と修行方法とが一人の優秀者を作るよりも百人の平均武士を作ってその部隊活動の上に戦力を強めるように移りかわったことを意味する。だが他方では、学校のねらいがひとりひとりの優れた学者・人格者を養成するのではなく、有能な藩士団を作って、いわゆる富国強兵の実を収めるように改まったことを意味する。

つまり、藩校とは文武両道を目指して多人数教育を行なう文武両方の施設を持った藩の学校ということができる。

しかしながら、現在の学校教育の基礎をつくったといっても過言ではない江戸時代の藩校は、今日あまりにも注目をされていない。その藩学教育がおこなわれた舞台である藩校という建物の価値や意味も一般に広く理解されていない。

今回、埼玉県岩槻市にある旧岩槻藩の遷喬舘（県指定史跡）について、平成16年1月に開始された解体修理工事に立会う機会を得た。そこで、本研究ではこの遷喬舘の建築を中心として、詳細な解体修理のデータによる復原を実施し、藩校建築の歴史的価値について考察を行ないたい。

その上で、全国に残る藩校建築を比較検討し、遷喬舘の位置付けを明確にし、利活用について提案することを目的とする。

Ⅱ．研究の方法

1．埼玉県指定史跡『遷喬舘』の解体修理にともなうデータの分析と、それによる当初の復原を行なう。
2．全国の藩校建築における歴史的意味や歴史的背景を先行研究および報告書の収集から調べ、比較を行い、『遷喬舘』の建築的な位置付けを試みる。
3．今後における遷喬舘の利活用についての提案を行なう。

Ⅲ．埼玉県指定史跡『遷喬舘』について

写真1　遷喬舘入口

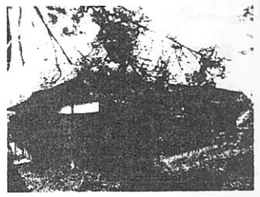


写真2　遷喬舘南西面

1．遷喬舘の歴史

遷喬舘は江戸時代後期の寛政11年（1799）に岩槻藩の儒学者、児玉南柯が創立した家塾に始まり、後に岩槻藩の藩校に昇格した建物である。

藩校遺構の現存例は全国にも少なく、藩校廃絶後は住居としても使われ、昭和14年（1939）3月31日に旧・史蹟名勝天然記念物保存法に基づいて埼玉県仮指定がなされた。昭和30年に埼玉県指定文化財保護条例が制定されると、埼玉県指定史跡として継承され、今日に至る。

建物は児玉南柯が居住していた武家屋敷を学館として利用したものである。文化年間（1804～18）に藩に献上され、名称も勤学所と改め藩校となった。

授業内容は儒学を中心に講義が行われ、常時40人くらいの藩士の子弟らがここで学んだ。また、文化8年（1811）には児玉南柯の建言により、遷喬舘の隣に武芸稽古所が併設され、武芸を合わせた藩士教育が目指された。

指導教員　伊藤　洋子　教授

2．遷喬舘の構成

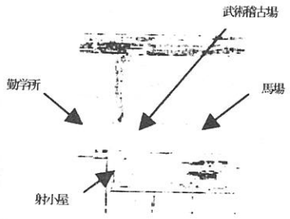


図1　遷喬舘古絵図　　図2　現在の遷喬舘の構成

現在の遷喬舘の構成において以前と大きく異なっている点は、武術稽古場等の学舎以外の施設が全くないことである。

3．遷喬舘の建築

遷喬舘の建物は、桁行7間半・梁間3間・平屋建てで、北東隅に桁行1間・梁間2間の玄関、および北面に縁と土間、南面の東側に縁、2箇所の便所の突出部を持つのが基本的な構成である。

規模は、建坪約30坪である。屋根は茅葺の寄棟造で、棟形式は竹棟とし、玄関部分があるためL字型の角屋形式になっている。なお、基準寸法は心々6尺である。

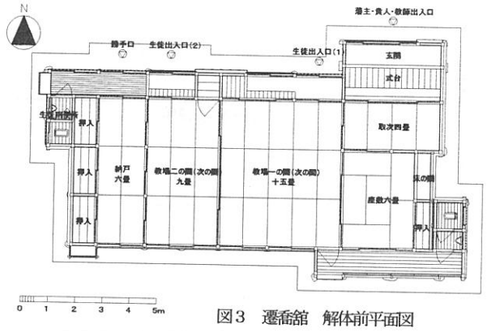


図3　遷喬舘　解体前平面図

4．解体修理の経緯について

表1　解体修理日程

日程	作業内容	部位			
平成16年 2月3日	大棚桟の足場組み立て	大棚桟			
2月第2週	外部の解体	壁			
2月第3週～第4週	内部の解体	壁	敷居	鴨居	天井
3月 1日	大棚桟完成	大棚桟			
3月第1週～第2週	屋根葺おろし	茅	棟飾り		
3月第3週	屋根の骨組みの解体	垂木	谷中		
	小棟組みの解体	小棟組み			
	内部の解体	床板			
3月第4週	梁、桁の解体	梁	桁		
	柱をたおす	柱			
4月第1週	土台、基礎の撤去	土台	基礎		
	発掘調査の開始	地面			
11月	部材の仮組解体開始	柱	梁		
12月	基礎工事開始	基礎			
平成17年 1月	新棟組み建てはじめ	柱	梁		
		叉首組み	垂木	谷中	

およそ2ヶ月ですべての解体が終わった。遷喬舘を囲む大屋根の組み立てから始まり、壁・屋根・軸部を解体していった。現在は柱・梁まで組み終わり、叉首にとりかかっている。

5．痕跡図ならびに復原図

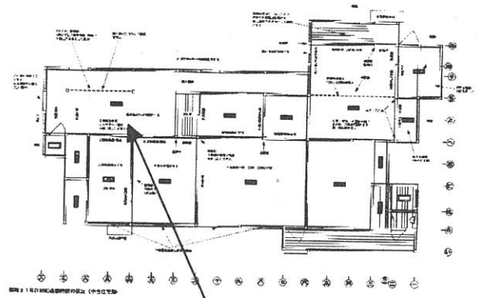


図4　昭和31年改修直前の状況

大きな変化が見られた部分
⇒ 北側下屋

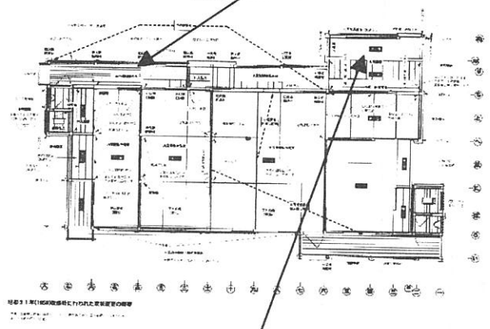


図5　昭和31年改修時に行われた現状変更の概要

一番大きな変化が見られた部分
⇒ 玄関

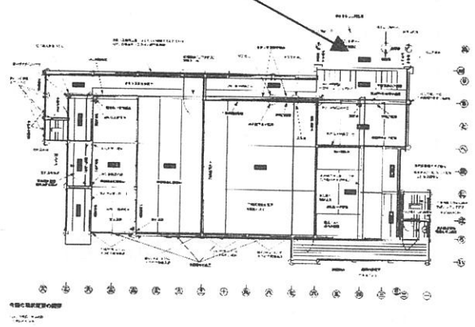
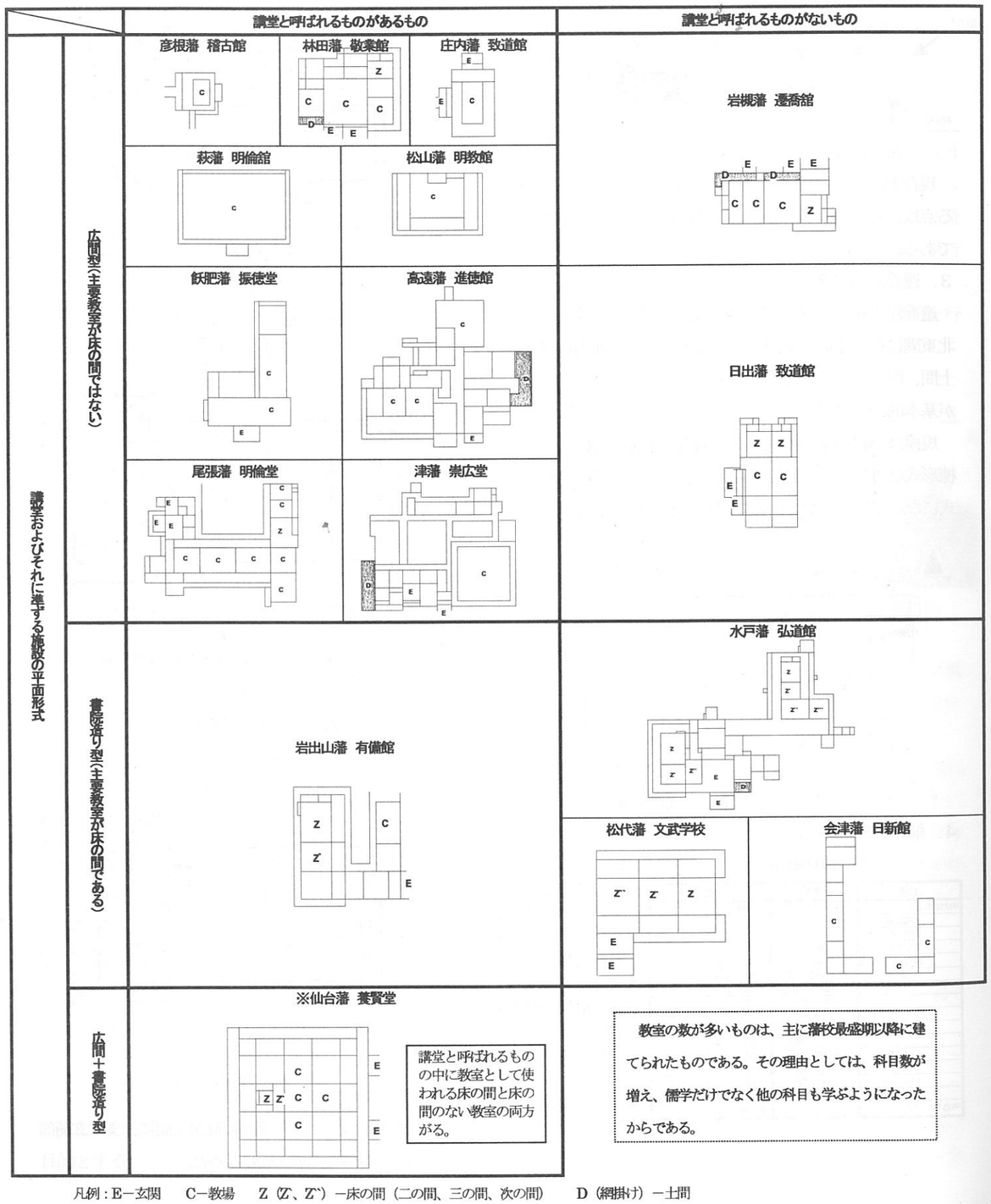


図6　今回の現状変更の概要

今回の復原により北側の縁が土間に、また玄関部分が吹きさらしの土間になった。

藩校遺構は大きく下表の５つの類型に分けることができる。表２をみると岩槻藩遷喬舘の形式をとるものは現存例の中では２つしかなく、非常に特異な平面形式であるということができる。

表２　講堂及びそれに準ずるものが残る藩校建築（『※』は現存していない）。



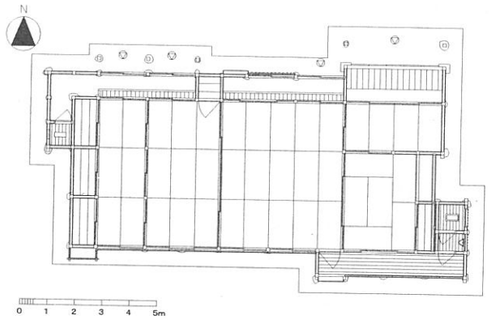


図７　遷喬舘　推定復原平面図

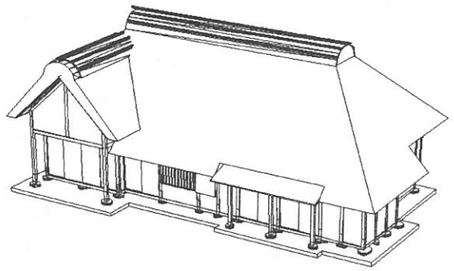


図８　3D復原透視図

６．遷喬舘の利活用について

これまでみてきたように遷喬舘は全国的にみても希少で価値の高いものであるといえるだろう。このように歴史的価値の高いものが残っているということをどうとらえ、今後どのように活用していくかはこれからの最重要課題である。

そこで今後における遷喬舘の理解とこれからの活用方法について提案してみた。

① 地域住民の活動の場となる公民館として利用する。

② 小・中学校の課外授業の場として利用する。

Ⅳ．全国に現存する藩校建築における位置付け

江戸時代、最終的に設立された藩校はおよそ300あった。その中でも現存する藩校建築は表３の通りである。

表３をみると部分的な遺構はいくつか残っていることがわかる。しかし、藩校の主要建物である講堂および学舎の遺構を残しているものは限られている。そのため、教場として使っていた主要な建物を残す遷喬舘の藩校遺構はとても貴重なものであるということができる。

表３　全国に現存する藩校建築

藩名	藩主	所在地	創立年	創立者	現況
有備館	岩出山藩	宮城県玉造郡岩出山町	1692	3代藩主 伊達宗村 儒者 佐久間洞巖	講堂・聖堂・表門
養賢堂	仙台藩	宮城県仙台市	1736		正門は泰心院山門として使用
致道館	庄内藩	山形県鶴岡市	1805	9代藩主 酒井忠徳 儒者 臼井矢太夫	講堂・その他
日新館	会津藩	福島県会津若松市	1642		教場・その他
講所（明徳堂）	三春藩	福島県田村郡三春町	1772～1780	7代藩主 秋田倩季	表門のみ
弘道館	水戸藩	茨城県水戸市	1841	9代藩主 徳川斉昭	正庁・通用門・番所
郁文館	土浦藩	茨城県土浦市	1799	7代藩主 土屋英直 石門心学者 北条玄養	正門のみ
遷喬舘	岩槻藩	埼玉県岩槻市	1804～1817	儒学者 児玉南柯	復原中
文武学校	松代藩	長野県長野市松代町	1853	佐久間象山	教場・柔術場・書庫・正門
進徳館	高遠藩	長野県上伊那郡高遠町	1860	8代藩主 内藤頼直	講堂・その他
明倫堂	尾張藩	岐阜県羽島市	1747	8代藩主 徳川宗睦	聖堂は永照寺本堂として使用
知新館	岩村藩	岐阜県恵那郡岩村町	1702	松平乗紀	長屋門のみ
崇広堂	津支藩	三重県津市	1821		講堂・御成門
稽古館	彦根藩	滋賀県彦根市	1799	11代藩主 井伊直中	講堂は移築し仏教会館として使用
敬業館	林田藩	兵庫県揖保郡林田	1794	7代藩主 建部政賢	講堂のみ
養老館	津和野藩	島根県津和野市	1786	8代藩主 亀井矩賢 儒者 山口剛斎	正門・武術教場・書庫と思われるもの
誠之館	福山藩	広島県福山市	1787	4代藩主 阿部正倫	玄関部分のみ
明倫館	長州藩	山口県萩市	1718	5代藩主 毛利吉元	聖廟は海蔵寺本堂として使用
明教館	松山藩	愛媛県松山市	1828	11代藩主 久松定道	講堂は高校内に保存
致道館	高知藩	高知県高知市	1862		正門のみ
開成館	高知藩	高知県高知市	1866		門のみ
五教館	大村藩	長崎県大村市	1670	5代藩主 大村純長	御成門のみ
致道館	日出藩	大分県速見郡日出町	1858	15代藩主 木下俊程	本館・表門
明倫堂	高鍋藩	宮崎県児湯郡高鍋町	1778	7代藩主 秋月種茂	書庫のみ
振徳堂	飫肥藩	宮崎県日南市飫肥	1831	13代藩主 伊東祐相	講堂・長屋門
昌平坂学問所	※幕府	東京都		朱子学者 林羅山	孔子廟・杏壇門

※昌平坂学問所は幕府が建てたため官学校にあたる

Ⅴ．結論

以上のように藩校におけるさまざまな類型を見てきたが、岩槻藩遷喬舘の全国的な位置づけは、藩校遺構の中でもめずらしく、大変貴重なものであるということができる。

江戸時代に建てられ、200年近くの歴史を誇る遷喬舘は岩槻とともに歩み、日本における藩校建築の貴重な遺物になった。今後さらなる分析を進め、のちの時代に江戸時代の大切な財産として伝え残していきたい。

（主要参考文献）

「埼玉県指定史跡岩槻藩遷喬舘保存管理計画策定報告書」　岩槻市

「藩校・塾・寺子屋」　栃木新聞社　１９９０

「藩校遺構」　城戸久・高橋宏之　相模書房　１９７５

「藩校と寺子屋」　石川松太郎　教育社　１９７８

「学校」　海原徹　東京堂出版　１９７９